

社会的な発達と他人との関わり 7月～9月



お泊り保育では、当日までに子ども達と何度も会議を重ね、いろんな意見が飛び交いながらも、主張したり譲ったりしながら、みんなの納得のいくスケジュールが完成しました。みんなで作り上げたお泊り保育。とても大きな達成感を感じられたのではないかと思います。この経験を通して、4月の最初と比べ、ただ自分の意見を言い合うだけではなく、“友達の意見を聞く”という姿が芽生え、段々と“会議”らしくなって、共同性の育ちが感じられました。

そして、ながせくんと関わりのの中では、僕ら大人も反省し学ばされることがたくさんありました。みんな本当に自然に、当たり前のように優しいのです。「やってあげる」「手伝ってあげる」ではないのです。そこには“あげる”という関りはありませんでした。本当に自然なのです。僕ら大人は、思えば困っている人を前にした時、この“あげる”が出てしまっているような気がします。子ども達から、気遣いではない気遣いを教えてもらった気がします。

病気でお休みしている友達がいた時も、「お手紙を書きたい」との意見が出て、「僕も折り紙の〇〇を入れる」と続いていく姿がありました。友達の辛い姿を想像できているからこそ、心配したり、思いやりの気持ちをむけたりが出来るのではないかと感じます。友達の気持ちに立てる。素敵です！

